

知事賞

水の実験で分かったこと

袋井市内小学校

五年 田中 さん

ぼくは、昨年、水の理科自由研究を行った。水は、無色とう明で、地味なそんなので、最初は本当に研究対象になるのか不安だったが、PHを測って汚れた水ときれいな水のちがいを目の前にして、いっきに実験が楽しくなった。研究を進めていく上で、自分是一日の中で汚れた水を大量に放出していることに気付いた。お風呂の水、手を洗う水など使った水は全て汚水だった。試しに、石けんや洗剤が入った汚水を毎日雑草にかける実験を行ったところ、数日後に雑草がかれてしまった。あんなに強くしつこく生える雑草をからしてしまう水なんてとても飲めないと思った。

本で、毎日飲んでいる水道水はどうやって作っているのかを調べた。その結果、石や砂でろかをしてきれいになっていることが分かった。自分でもペットボトルに石や砂を入れてろかそう置を作ってみたところ、どろ水がとう明な水になった。しかし、汚れた石や砂でろかした場合は、とう明な水にはならなかった。このことから、きれいな水を作るには、周りのかん境もきれいにしないといけないことに気が付いた。

同じ本の中に、水道の水はとてもき重な水だということも書いてあった。じゃ口をひねると、いつでも水が使えると思っていたが、地球上のほとんどの水は、塩水（海）で飲むことができない。毎日、常に安心安全な水が使えるこ

とに感謝しないといけない。

ぼくは、虫が好きなので、よく森や林に行く。すると、さらさらと流れる小川を見ることがある。小川を見ると、とても心がおだやかになる。水は、使うだけでなく見るだけでも心を豊かにしてくれる。公園にふん水がある場所は、みんなが集まる中心であることが多い。水は、人間が生きていく上で、欠かせない大切な存在だと思った。

昨年、水の研究を行わなかったら、ぼくは、水の大切さ、豊かさに今も気付かなかった。毎日何気なく、当たり前のように使っていたが、本を読んで勉強してから水は無駄なく使おうと意識するようになった。どうしても生きていく上で、汚水は出てしまうが、それをきれいにするために、自然かん境も大切に持するようになろうと思った。物を最後まで使うようにし、ごみを減らし、豊かな森を守っていききたい。

今、SDGsに「安全な水とトイレを世界中に」という目標があると聞いた。その中に、実現のためのこう目として、「水と衛生にかかわる地域の参加を支援する」というものがあった。ぼくは、衛生という言葉聞いて、きれいな水は、病気も減らすことに気付いた。世界では、汚い水により病気になる人がいる。病気が世界中に広まったら、大変だと思った。ぼくも目標を達成するために、

水についてもっと勉強し、今後も水を大切に使い続けていきたいと思います。